

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	特定非営利活動法人ユグドラシル										
所在地	〒594-0002 大阪府和泉市上町674番地の1	設立年	2020年								
運営主体	特定非営利活動法人ユグドラシル										
事業目標	活動の実施期間は初年度は月4回程度、次年度より月6～8回を目安に長期的に活動を実施することを目標とする。なるべく土日を中心に活動を展開する。学校や地域の垣根を越えて切磋琢磨することにより、泉州地域全体の芸術文化レベルの底上げと活性化を図ることができる。 また、学校や教育委員会との連携により、①多くの中学生の目に活動が触れ、参加しやすい②後援を受けられることにより、社会的信用度の向上とコンサート時の集客が容易になる③新たな部活動間のネットワークが構築でき、コンクールやコンサート等幅広い情報共有が可能となる。これらの効果が期待でき、初年度は参加人員30名超え(現在27名で90%)、費用負担はある程度確保しているため、最低限の参加費を保護者に支払ってもらうことで合意。補助金ではプロの指導者による謝金や学生にとって死活問題の楽器の確保及びそれに係る消耗品(木管のマウスピースやバルブオイルなど)及び調整費(キーの調整やタンポの交換等演奏に最低限必要な措置)に補填し、成果発表としてのコンサートを開催するための費用として状況に応じて費用負担を講じた(補助金対象外である備品の購入等)。										
きっかけ	大阪南部には吹奏楽部はいくつも存在しているが、強豪校以外の活動頻度は活発でないうえに、指導者も不在のことが多く、特に新型コロナウイルスの始まりによって非常に多くの中学校の吹奏楽活動が停止及び縮小を余儀なくされた。これに立ち向かったのが当会と、当会と連携している音楽を主体としているNPO団体や任意団体である。資金力や伝手をフル動員して練習場所に毎回ホールを借り受け、様々な地域の駆け込み寺となるべく昨年至る場所で活動を実施し、確かな手応えを感じたため、今年は泉州地域に固定して地域芸術文化の受け皿として確立するモデルとしての活動を計画していたところ、うってつけの補助金が始まったため申請した。										
団体・組織等の連携	【関係団体一覧】 <table><thead><tr><th>団体名</th><th>本事業における関わり方</th></tr></thead><tbody><tr><td>特定非営利活動法人西臼杵教育振興連合会</td><td>業務提携、指導、楽器手配など</td></tr><tr><td>和泉市教育委員会</td><td>学校関係との調整、連携</td></tr><tr><td>和泉市立信太中学校</td><td>アンサンブルの練習場所、楽器保管場所提携など</td></tr></tbody></table>			団体名	本事業における関わり方	特定非営利活動法人西臼杵教育振興連合会	業務提携、指導、楽器手配など	和泉市教育委員会	学校関係との調整、連携	和泉市立信太中学校	アンサンブルの練習場所、楽器保管場所提携など
団体名	本事業における関わり方										
特定非営利活動法人西臼杵教育振興連合会	業務提携、指導、楽器手配など										
和泉市教育委員会	学校関係との調整、連携										
和泉市立信太中学校	アンサンブルの練習場所、楽器保管場所提携など										

活動場所	和泉市立信太中学校第二音楽室、堺市立三原台中学校音楽室 大阪市立区民センターホール等
活動概要	1. 指導 (1) ソルフェージュ 楽譜を読み込む基礎訓練を行うとともに、その作曲者や編曲者の背景や意図を汲み、自発的に考えさせることにより芸術性の向上は元より感性の醸成や音楽に対する真摯な姿勢を養うことを目的とする。 (2) 基礎練習 スケールやコード、ハーモニーの基礎練習を通して、芸術を創る根幹の重要性と身体に基盤を作り、部活外部での一般地域バンドとしてのサウンド作りと特色を見出すことにより、オリジナリティを創造して他とは一線を画す、息の長い組織づくりを目指す。 (3) 合奏 基礎練習だけでは意欲が削がれるため、学生の協調性と親和性を深め、人に聴かせる音楽を創り上げるため曲を完成させる意味合いで合奏を行う。吹奏楽は文字通り吹くことにより音楽を作り、単音楽器のため息を合わせることに極意がある。合奏を実施することにより曲を創る楽しさは勿論のこと、息がぴったりと合ったときの爽快感と一体感は何物にも代えがたい感動を生み、より深みに嵌っていく。このことが芸術をより活性化するとともに学生は非行に走らず、健全な精神の修養が可能となる。 (4) 企画 ただ基礎練習や合奏だけを繰り返していても何ら対外的にアピールもできず、自己満足で終わってしまうので、成果発表と活動報告を兼ねて年に1～2回コンサートを実施する。コンサート開催にあたって、実行委員の組織からコンサート企画、練習計画、選曲、渉外、広報、会計、監査と実施することは多岐に渡る。これらを積極的に関わらせることにより、どのような事象にあっても将来に渡って役に立てる能力を培い、地域の若手リーダー候補を積極的に育てていく。

○本事業による成果

学校や地域の垣根を越えて、様々な地域から学生が参加してくれ、一つの基盤となる演奏団体となり、地域芸術文化の向上及び発展に寄与するという最大の目標はひとまず達成できたように思う。

プロの指導を受けられるという大きなメリットからか、和泉市の中からも信太中、和泉中、はつが野、隣の泉大津市からも誠風中や東陽中などから参加もあり、堺市立三原台中などからも参加があった。

当初の目標では3～4校程度、参加者数も20～25名程度を予定していたが、倍の参加校と、人数も時期によっては50名を超えるときがあり、200%達成となった。また、引率が教員である必要がないことから、外部移行のためのモデル事業としての目に見える成果として、少なくとも、指導中は教員が立ち会うことはなく、その時間は教員が他の会議や翌日の授業の準備、個人の時間に充当できたと聞いており、部活動に教員が縛られることはなく、生徒は専門的知識を均一に教授することができたので、双方にメリットのある事業とすることができた。部活動が週4回平均2時間としたとき、1週間で8時間、月32時間教員の時間を還元することができた計算になる。

○児童・生徒への指導に関する工夫

部活動の顧問は専門家でなく、また仮に楽器をしていたとしても、自身が経験したことでしか生徒に指導ができないため、極端な話楽器の持ち方・置き方、メンテナンス方法など演奏以前のことを知らない生徒が多数いたため、各セクション(フルート、クラリネット、サクソ、トランペット、ホルン、トロンボーン、テューバ、ユーフォニアム、コントラバス、打楽器)ごとに専門家の指導を実施し、全員が全くの素人レベルだった者から経験者と言えるレベルの水準にもっていくことができた。吹奏楽は人口が多い割に専門性が高く、多岐に分かれるため、ある程度知識がある人間を複数派遣しなければならず、部活では限界があるものについて今事業で補完及び代替となるような指導方法を実践することとした。

○運営上の工夫

人と人の繋がりが非常に大事であり、ボランティアであっても指導に時間をかけてくれ、指導をしたい、地域の文化向上に貢献したいといった奏者を呼びかけ、楽器や知識に偏りがなく指導できたのが非常に有効性が高かった。また、個人持ちのものではあったが、ipadなどでアプリを駆使し、Hz帯や波長、倍音を視認できるように工夫し、時間の短縮による効率的な指導を実施することができた。

そしてさらに、ソロコンクール直前等ではipadを貸与し、リモートでの指導も実施することにより、技術面で追いついていない生徒のサポートも積極的に行うことができた。

○継続的な運営に関する課題・展望

場所の確保や時間の確保は勿論のこと、楽器や必要備品の整備・維持はとてつもなくハードルが高く、ICTの有効活用といったことや、部活動の地域移行を本気で実行するなら、備品購入を一切認めない補助金の在り方では到底完全移行は実現しないように思える。部活の備品はあくまで学校のものであり、市など公共団体の財産である。民間の助成金で楽器が購入可能なものは倍率も厳しく、クラウドファンディングなど今誰しものが、どこの団体でも考慮し、実行しているところであり、全国規模での展開が控えている昨今では、相当厳しい展開が待っているように思う。

結局のところ、保護者負担や、補助金・助成金頼みで、備品や維持その他は善意に期待するという決して健全とはいえない財政状況で、常に綱渡りで運営を強いられることになる。これを回避するには、定期的に公演を実施し、固定客をつけ、寄付金や支援金、募金や物品販売など金策に講じる必要がある。なお、有料公演にした場合、ホール代の有料料金割り増し、設備付常料割り増し、著作権使用料、人件費が余分にかかるため、高額かつ大人数を動員できなければかえって余計費用がかかるので不可

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

活動場所や楽器の保管場所を提供してくれる学校なり場所がある地域はよいが、全体的にみて厳しいように思われる。学校や教育委員会などに伝手が無い場合、どのようにそういった場所を確保するのか、公共施設は既に市民団体が使っているところが多いか、保管不可のところも多く、学生に備品である楽器を触らせたくないという団体が普通である。このため、提言するとすれば、国→都道府県→市町村→地区の自治会や公民館、公共団体へ部活動から地域移行を担っている団体への協力と場所の提供に積極的に協力するよう要請をしておいてくださると、他の地域でも移行が段階的にできると思う。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	58
	学校名	信太中、和泉中、はつが野中等部、誠風中、東陽中、三原台中
	募集方法	公募(コンサートでのチラシ配布、個人SNS、指導学校へ声掛け等)
指導者	人数等	12人
	募集方法	提携事業者からの派遣、斡旋
参加者の移動手段		自力(徒歩、自転車、電車、バス、保護者送迎)
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金 5,000円/h 指導・事務謝金 2,000円/日
	その他	再委託費(プロ演奏謝金 6,400円/h プロ交通費 2,200円/日)276,760円 成果発表会会場費及び付帯設備費 254,390円 舞台装置レンタル費 240,000円 打楽器レンタル費及び運搬費 500,000円
活動財源	会費	1活動1人500円を全40回(平均25名)=500,000円
	その他	補助金が入金されるまでの法人立替
スケジュール	基本活動	月4回を10ヶ月間実施。使用する学校や参加生徒のスケジュールを元に土日で練習日を決め、まずは基礎練習、そして同パートの練習、セクション練習をして全体練習が基本的なルーティン。基礎練習ではリトミックやソルフェージュ、スケール等の練習を基礎として実施。
	年間	年間スケジュール表に則り実施。3ヶ月に1度進捗状況の確認。成果発表会へ向けて企画委員会を立ち上げ、セットリストから構成、演出までを生徒中心に企画。1月28日に集大成となる成果発表会を実施。終了後は次年度に向けた練習計画や運営について計画。
保険加入等		参加者は個人で入ってもらうことを条件にしたため、運営側では未加入

【活動の様子（写真添付）】

